1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471200683
法人名	有限会社　みんなの家
事業所名	グループホーム　みんなの家
所在地 （電話番号）	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前55 （電　話）0220－34－7464

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20　年　1　月　16　日

【情報提供票より】（　年　月　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18　年　3　月　27　日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	7　人	常勤　7　人，非常勤　　人，常勤換算　6．8　人	

（2）建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	木　造り	
	1 階建ての　階　～　1 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	27,000　円		その他の経費（月額）	12,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1，000　円		

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性　8 名
要介護1		4　名	要介護2	1　名	
要介護3		2　名	要介護4	2　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	84.9 歳	最低	79 歳	最高　92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	佐幸医院、おおさか歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長は建築士で「老後自分の過したい場所」を創りたいとの思いで開設した。和風で日当たりがよい建物である。近所の方や利用者が野菜を持参したり、学童が元気な声で「ただいま」と立ち寄ると、入居者も負けずに「おかえり」と温かく迎えている姿は家庭的である。地域や老人クラブ、小学校等との交流も盛んである。グループホームには併設のデイサービスやショートスティもある小規模多機能介護施設で、地域の介護110番になろうと努めている。医療機関の協力と正看護師の採用、看取りに関する指針の作成など、施設長はじめ入居者や家族の思い「終の棲家」を実現しようと努めている。11月より庭にイルミネーションを点灯、地域の名物にもなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** ①玄関前の荷物は移設した物置に片付けられ、花も植えられている。 ②ケアプラン見直しは3ヶ月1回、モニタリングで計画の遂行や効果等評価し変化があれば随時ケアプランを見直ししている。 ③地域との交流では小学校の行事に参加し、学童の見守りも行っている。 ④外部研修は全職員順番で参加している。
	自己評価の意義や目的を説明し、全職員から自己評価を記入してもらい、管理者が取りまとめた。自己のケアのあり方を見直し、新たな気づきもあり、介護サービスの質の向上に役立っている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 委員には市職員、地域包括支援センターのケアマネージャー、区長、民生委員、小学校PTA会長、家族代表2名、入居者代表3名に職員4名を加え計14名で、偶数月の15日に開催している。外部評価の改善経過や今後の取り組みなどを報告し、毎回活発で会の内容が変り充実してきている。次回の議題に「看取りに関する指針」を予定している。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 相談室を設け、家族等に気軽に相談や苦情を話してもらえるようにしている。面会時と電話等で苦情や要望を聞き出している。毎月「みんなの家通信」を発行、担当者欄に入居者の生活や健康状態などを記入し、行事で撮った写真や金銭台帳の写しを送付している。尚、苦情相談先として、第三者委員の委嘱の検討をお願いしたい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 近所の方や利用者が野菜を持参して立ち寄ったり、ホームの夏祭りや芸能ボランティアが来訪の時、近所に案内し喜ばれている。老人会との交流会で認知症診断テストや講義を行って、認知症の相談ができるようにしている。地区のごみ拾いや健康教室、小学校の行事に参加したり、地域の学童の見守りなどを行ったりと、地域との交流は活発である。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所前にスタッフ全員でホーム独自の理念を作った。理念はその事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すもので、将来自分達が住みたいと思う施設のイメージを皆で考え、住み慣れた地域で生活を安心して過せるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や方針、目標を毎週月曜の朝のミーティングで復唱し確認している。理念はパンフレットや掲示板に明示し、入居者や家族には入居時に分かりやすく説明している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所から野菜等を頂いたり、ホームの夏祭りや芸能ボランティアの来訪時に案内している。老人会で認知症診断テストや介護相談を行tっている。地区のごみ拾いや健康教室、小学校の行事にも参加。学童がホームに立ち寄り「ただいま」、「お帰り」と元気な挨拶を交わしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を説明し、全職員から自己評価を書いてもらい、管理者が取りまとめて作成した。自己のケアを見つめ直す機会にもなって、新たな気づきにもなり、サービスの質の向上に役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は市職員、地域包括支援センターのケアマネージャー、区長、民生委員、PTA会長、家族代表2、入居者代表3、職員4の合計14名で、偶数月の15日に開催している。次回は「看取りに関する指針」や「緊急時や災害時の地域の協力の呼びかけ」等を予定している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の担当者に出向き理解や支援を働きかけたり、運営推進委員として参加してもらっている。ホームの運営やサービスの課題など相談し、医療加算申請等を推進している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時に入居者やホームの様子を写真やビデオで見てもらっている。毎月「みんなの家通信」を送付、担当者の欄に入居者の状態を記入している。行事の写真や金銭台帳の写しも送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時や来訪できない時には、「みんなの家通信」送付時に意見や要望等を聞いている。面会者名簿やお茶を出して、気軽に話せる雰囲気つくりを工夫しているが、家族が率直に不満を語ることは難しいので、より工夫していただきたい。	○	相談や苦情等を受け入れやすくするため、外部の人の相談・苦情先として、第三者委員の委嘱をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少ない。馴染みの関係づくりのため、朝晩の挨拶や話しかけは多くしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修や外部研修には順番を決めて、全員参加している。スタッフ会議で報告し、全職員が共有してケアに生かしている。新採用の正看護師の希望で「ターミナルケア」の研修を受講するなど、希望の研修にも参加している。資格取得も支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、研修の機会を活用。交換研修には3名が参加し、他のグループホームの体験でホームの多機能介護のよさがよく分かり、自信をもって仕事に励むようになっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人には事前に体験してもらい、家族には見学してもらって、不安を解消してから入居してもらっている。ホームの雰囲気や職員との馴染みの関係を作り、入居してもらうのでトラブルは少ない。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	刺身や料理、片付けや縫い物、お茶やお花など、入居者の得意分野で力を発揮してもらい、介護する側される側と分けることなく、共に生きるを基本に入居者から教えてもらう場面づくりをし、喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が元お花の先生で、生け花を生けて玄関等に飾ったり、抹茶を立てて入居者等にご馳走したり、家族等の協力を得て実現している。自己表現の苦手な人についても、日々の暮らしの中で今何を求めているか分かるようさらに努めていただきたい。	○	外出など一部の利用者の意見や考え方で決まることがあり、自己を表現できない入居者の思いを把握することは非常に難しい。お茶会等の成功を生かし、入居者に寄り添い傾聴して、その思いを少しでも実現できるよう支援していただきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常の会話から入居者の希望を引き出し、家族の面会時や電話の際、家族等の意見や要望等を聞いて介護計画に反映させている。アセスメントに加え、毎週水曜日に行うモニタリングや金曜日のケアカンファレンスで、職員等の意見を聞いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の定期的な見直しのほか、状況に応じそのつど介護計画の見直しを行っている。モニタリングで計画の遂行状況や効果など評価し、入居者や家族等の意見や要望を聞き介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医等の通院には正看護師が介助している。棟続きなので、デイサービスの時間延長やショートステイの利用者、立ち寄りの学童等と、交流の機会が沢山できる。医療連携加算適用のホームなので、入居者や家族等は「終の棲家」を希望している方々が多い。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの内科や歯科の協力医の他に、入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように、家族と協力して正看護師が通院介助にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成して、家族から同意を得ている。ホームでできるケアを説明、終末期を過せるように取り組んでいる。居室にはコール用ペンダントを、トイレ・脱衣所にはコールボタンが設置され緊急時に備えている。協力医については口頭で了解をもらってはいるが、文書にはされていない。	○	協力医に緊急時の往診は口頭で了解してもらっているが文書にして、安心してホームが終の棲家としている入居者の期待に応えるようにしていただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに尿意などの確認をしないことや、失敗した場合手早く周囲に気づかれないようにさりげなく介護するなど、スタッフ会議などで確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にあわせてゆっくり入浴できたり、プライドを大切にしてさりげない支援をしている。基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過し方はせず、入居者の体調や天候などで、その時の気持を最優先して過せるよう柔軟に対応支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が食べたい物の栄養バランスを考え献立している。湯のみ、箸はなじみの物を使用している。毎日職員と一緒に食事の準備や配膳、片付けを行ない、入居者の出番を多くしている。嗜好調査を行い献立に活用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせ、ゆっくり入浴できるよう支援し、希望により夜間入浴も実施している。全介助者は隔日入浴となることもあるが、入居者の希望を聞いて支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺身や料理，縫い物、生け花等得意な分野で力を発揮してもらっている。入居者のできること、できないことを把握し役割を決めて行っている。絵手紙教室を開き、入居者が家族等に絵手紙を書いて出せるようアートセラピーを検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出、食材の購入、美容院行き等入居者の希望で行う。日常的に買い物、散歩、ドライブに出かけている。マイクロバスを借りて、みんなで定義山まで遠出し、家族にも声がけしている。今後は実家やお墓参り等も企画したいと考えている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、自由に出入りできる。ひとり一人の状態や気分を細かく観察して、さりげなく声を掛けて安定を図ったり、また出かけそうになった時は一緒に外に行って見守り支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員による緊急時の対処方法、救命救急の講習受講、毎月1回の防災訓練、年2回の消防署立会いの避難訓練、夜間避難訓練を実施している。運営推進会議を通して地域の協力も呼びかけている。地域防災マップに基づいた訓練を検討中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランスや食事量等をチェックして献立を作成している。季節に応じて適温での食事を提供するよう工夫している。入居者個人の食事や水分の摂取量を記録表に記載して、健康管理に活用している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の荷物は、ホーム近くに移動した物置に収納している。和室やショートステイのリビング等も、入居者の過せる共用の場としている。庭に草花やイルミネーションがあり、愛犬ブッチも飼われ、園芸療法やアニマルセラピーとして活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力でたんすやテレビ、家族の写真や装飾品などが持ち込まれ、安心して過せる居心地のいい空間となっている。居室内温度を過ごしやすい温度に設定し、配慮している。		